

中期 計画	第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 芸術文化観光専門職大学 <b>(1) 教育に関する措置</b> ~芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学~
----------	--

## ア 芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成

評価：A (法人による自己評価：a)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が自らの職業観を培い、専門職業人として必要な資質・能力を身につける基盤形成となる必修科目「芸術文化と観光」の学生理解度は 90%を超えており、実践的な学びが提供されている。</li> <li>・フランス・リヨンの学生と豊岡とフランスでの「私はかもめ」の共同上演では、言語や文化の垣根を超えて、監督、美術、映像などの舞台制作を学生自ら行う、極めて高度なアクティブ・ラーニングを実践しながら、全4公演、累計 589 名の観客を動員し、事業活動を推進した点は評価できる。</li> <li>・引き続き、理論と実践を繰り返しながら、他者と協働して、芸術文化及び観光の事業活動を推進するマネジメント能力、価値創造能力を有する専門職業人の育成に努められたい。</li> </ul>

中期目標	中期計画	法人の自己評価						
		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
<b>【令和3年度から6年度の主な実施状況】</b>								
○言語及び身体的コミュニケーションについて基礎的な能力を修得するため、必修科目のほか「身体コミュニケーション実習」「演劇ワークショップ実習」などを開講。「身体コミュニケーション実習」は選択科目ではあるが、毎年度 80 名以上が履修するなど、高い履修率 となっている。								
芸術文化及び観光の双方の視点を生かし、芸術文化及び観光に関するマネジメントを行う能力を有する専門職業人の育成をめざし、演劇的手法による対話的コミュニケーション能力を基礎として、合意形成を図りながら両分野の事業活動を推進できる能力の養成に向けた教育を推進する。	⑥【演劇の手法を取り入れた対話的コミュニケーション能力の養成】 演劇やダンスのワークショップ等の実技と講義を交互に行う「コミュニケーション演習」を1年次の必修科目とし、対話的コミュニケーション能力を養成する。また、1年次は全員が学生寮に入寮し、日常生活においても社会性と協働性を身に付け多様性を受入れるとともに、コミュニケーション能力を養成する。	－	－	b	b		a	
		<b>○芸術文化及び観光マネジメント能力を養成するコア科目のうち、必修科目である「芸術文化と観光」の授業評価の学生理解度は、中期目標期間の全期間で 80%超（4か年中3か年で 90%超）と高い理解度を得た。</b>						
	⑦【芸術文化及び観光のマネジメント能力の養成】 芸術文化分野及び観光分野のいずれかを主となる専攻、他方を副となる専攻として、両分野を架橋する教育課程を編成し、双方の視点を生かして芸術文化と観光の事業活動を推進するための芸術文化マネジメント能力、観光マネジメント能力及び価値創造の能力を養成する。	○学生寮生活委員会（2年生ドミトリー・チーフ（3名）、1年生の班長（上・下期計6名）と担当教員や大学事務局と定期的な意見交換を実施し、寮生活の自主的な運営のサポートを行った。						
		○カリキュラム編成や授業改善のため、全科目全学生を対象にした授業評価アンケートを実施した。						
		○令和5年度には、リヨン国立舞台芸術技術学校との共同作品『私はかもめ』を豊岡演劇祭及びフランスで上演するなど、学内でも国際的な力を養うための環境を提供						
		<b>【評価指標の達成状況】</b>						
		<芸術文化と観光を架橋する教育に対する学生理解度> (%)						
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
	実績	－	－	91	84	95	92	
	目標	各年度：80%						
・各年度、目標を達成								

## イ 地域活性化に貢献する専門職業人の育成

### 評価：A (法人による自己評価：a)

- 地元企業での実習において実践力を養成し、実習での学生の提案から取引先とも連携、改良を重ねたバッグが商品化され東京や大阪の百貨店で販売されるなど、地域課題から新たな事業が創出されている点が評価できる。
- 地域社会をフィールドとした実習や実践的な教育の展開により、学生のふるさと意識が醸成され、第1期卒業生の但馬地域での就職・起業者は8名、全就職者に占める但馬地域への就職率も15.1%となり、豊岡市の第3次但馬定住自立圏共生ビジョンの成果目標（但馬内企業への就職者数 毎年8人）を達成している。
- 地域と連携を図りながら課題解決を推進する実習プログラムは、学生が学びながら地域を活性化し地域貢献を行うという、全国でも稀有な取組である。引き続き、大学の特色を活かした実習を充実させ、地域の活力を創出し、社会貢献できる専門職業人の育成に取り組まれたい。

中期目標	中期計画	法人の自己評価					
		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	自己評価
地域社会をフィールドに、大学と企業・自治体等で課題認識を共有し、新たな価値の創造により、芸術文化の発展及び持続可能な観光の振興に繋げ、地域を活性化し、我が国に活力をもたらす専門職業人を育成する。	<p>⑩【地域を活性化し我が国に活力をもたらす人材の育成】</p> <p>芸術文化と観光の両分野を架橋した学びを推進し、その学びの意義を、学生・教員のみならず広く地域社会と共有し、地域と連携した教育を展開する。</p> <p>また、地域社会をフィールドに、様々な主体と連携を図りながら多彩な実習プログラムを展開し、地域課題の解決を推進することで、地域の魅力を再発見、再認識し、地域での新たな事業を創出できる地域の担い手となる人材を育成する。</p>	-	-	b	b	△	a
【令和3年度から6年度の主な実施状況】							
<p>○産業界及び地域社会等の委員からなる教育課程連携協議会を年2回開催し、本学の臨地実務実習における実施状況や地域と連携した取組について意見交換を実施し、受け入れ先からの要望や地域の期待を共有</p> <p>○教育課程連携協議会の意見を踏まえ、事前事後の学習の充実により実習期間を短縮可能にするなど、実習先の実情を踏まえたカリキュラムを編成</p> <p>○但馬地域の地元企業を中心に、「観光資源実習」や「芸術文化・観光プロジェクト実習」等の臨地実務実習を展開し、管理運営や接客業務などの実務体験や、課題解決策の提案に取り組み、高度な実践力を修得するカリキュラムを編成</p> <p>○令和5年度には、地域イノベーション実習において学生が提案した阪神タイガース応援グッズが商品化されるなど、学生の提案で地域の新たな事業を創出</p> <p>○臨地実務実習等を通じ、学生が地域の企業や行政機関の業務を経験し、地域の産業や文化、生活に触れることで、但馬の魅力を発見し、地域とつながりを持つ意識が醸成されたこと等により、令和6年度の第1期卒業生のうち8名が但馬地域で就職、起業するなど、全就職者に占める但馬地域への就職率は15.1%となった。</p>							

## ウ 世界に通じる専門職業人の育成

評価：B (法人による自己評価：a)

- コロナ禍の開学でありながら、海外大学との協定締結や交換留学生の派遣・受入など、計画どおりに取り組んでいる。
- 語学教育は、英語クラスの開講など基礎的な英語力の習得は着実に進んでいるが、今後は、海外への発信力を強化するために、実践的な語学スキルを身に付けることに加え、英語以外の韓国語や中国語などの多言語教育の推進に取り組まれたい。
- 今後、ビジョン 2050 の実現に向け、留学生の受入促進、海外機関等との連携強化、世界での知名度向上など、大学のグローバル化を進めるにあたり、唯一無二の大学として存在感が発揮されることを期待する。

中期目標	中期計画	法人の自己評価																													
		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																								
国際的に通用する芸術文化及び観光に関する専門的な知識・技能や語学力を兼ね備え、地域で生み出された芸術文化及び観光の新たな価値を世界に発信し得る、世界に通じる専門職業人を育成する。	<p>㊱【実践的な語学教育と国際感覚の醸成】</p> <p>基礎的な英語能力を修得した上で、各職業分野で必要とされるキャリア英語など実践的な語学スキルを身に付ける。また、英語以外の多言語教育を推進する。併せて、全ての学生が体験できる海外実習や海外語学研修の拡大や、海外との大学間協定に基づく教員・学生の交流を通じて、本学のグローバル展開を推進し、多様性を理解できるグローバル人材を養成する。</p>	-	-	b	b																										
【令和3年度から6年度の主な実施状況】																															
<ul style="list-style-type: none"> <li>海外語学研修や交換留学を促進するため、ソウル芸術大学校（韓国）やトリア大学（ドイツ）、嶺東科技大学（台湾）との協定を締結したほか、令和6年度には新たに京畿大学校（韓国）との協定を締結し、中期計画の目標 10 件を上回る 11 件の協定を締結</li> <li>コロナ禍での開学であったが、令和 4 年度から国際交流を本格化し、累計で 8 名の交換留学生を受け入れ、本学からは交換留学や海外実習、海外語学研修の国際交流プログラムで、延べ 68 名の学生を海外に派遣</li> <li>異文化理解の促進やグローバルな視野を養成するため、台湾のホテルでの実習やドイツ文化施設の視察等の国際交流プログラムを展開</li> <li>令和 5 年度には、リヨン国立舞台芸術技術学校との共同作品『私はかもめ』を豊岡演劇祭及びフランスで上演するなど、学内でも国際的な力を養うための環境を提供</li> <li>グローバル人材に不可欠な語学力を育成するため、1 年次には必修の「英語」を 1 クラス 15 人程度の少人数で開講し、4 技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）をバランス良く養成するとともに、「グローバルリーダー入門」や「世界の文化政策」等を開講し、世界への理解を深める知識と広い視野を育成</li> <li>大学基金を活用し、語学研修や海外実習等の国際交流プログラム参加に要する渡航費及び宿泊費の一部を累計 60 名に支援</li> <li>理事長のリーダーシップのもと、学生の国際交流を促進し、海外での学びを深め、グローバルに活躍できる人材を育成するため、理事長裁量経費を活用した国際体験支援プログラムを実施し、令和 6 年度は 35 名の学生の海外渡航費及び滞在費の一部を支援した。</li> </ul>																															
【評価指標の達成状況】																															
<p>＜海外の大学との協定数＞ (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> <th>R 4</th> <th>R 5</th> <th>R 6</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td colspan="6">令和6年度：10件</td><td></td></tr> </tbody> </table>									R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	計	実績	-	-	6	3	1	1	11	目標	令和6年度：10件						
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	計																								
実績	-	-	6	3	1	1	11																								
目標	令和6年度：10件																														

### （3）コンプライアンスの推進

評価：C (法人による自己評価：b)

- 非常勤嘱託員による複数年に亘る科研費詐取という大学の信用を失墜させかねない重大な事案が令和5年度に発覚した。ガバナンス体制の脆弱性に対し、管理監督責任も含め、法人全体で重く受け止め猛省されたい。今後は、コンプライアンス意識の徹底、不正を未然に抑止するシステムやチェック機能の強化など、二度とこのような事が生じないよう、再発防止策を着実に実施されたい。

中期目標	中期計画	法人の自己評価							
ア 法令の遵守	ア 法令の遵守 ⑦5 【コンプライアンスの推進】	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	自己評価	
		b	b	b	b			b	
【令和元年度から6年度の主な実施状況】									
<両大学共通>									
○両大学ともに、コンプライアンスの確実な推進、とりわけ各種ハラスメントの防止のため、会議や研修会等において意識の向上、啓発を図った。									
○法人本部及び両大学で「事業継続計画（B C P）」を策定するとともに、非常時用物資の備蓄等を実施									
○新型コロナ対応では、国や県の対応方針を踏まえ、行動指針・マニュアルを隨時改訂のうえ、適切に運用し、全学的に感染防止対策に取り組み、学内でのクラスター発生を防止した。									
○情報システムのセキュリティ強化の物理・技術的対策として、学内設置の各種システムのサーバを情報通信業者のデータセンターへ順次移設したほか、メールやシステムの利用の際の本人確認として多要素認証（ワンタイムパスワード）を導入									
○情報システムのセキュリティ強化の人的対策として、情報セキュリティに関する研修等を実施									
<兵庫県立大学>									
○令和5年度に神戸商科キャンパスで発覚した非正規職員による科研費詐取事案への対応を行うとともに、6年度に(独)日本学術振興会へ報告した再発防止策の着実な実施									
<芸術文化観光専門職大学>									
○教職員、学生を対象としたハラスメント研修を実施するとともに、ハラスメント対策委員会、保健室、外部相談窓口など複数の相談窓口を設置し、安全管理体制を確保									
○月1回の安全衛生委員会を開催し、従業員の安全衛生対策を審議。メンタルヘルス等の教職員向け相談窓口を周知徹底するとともに、従業員過半数代表者による全従業員を対象とした労働環境等に関するアンケートも活用し、危険箇所の改修などの対策を実施									

### III 全体評価

#### 1 第二期中期目標期間の評価

以下のとおり、全体として目標・計画を概ね達成していると認められる。

##### (1) 教育、研究、社会貢献

###### ①兵庫県立大学

- ・ICT を活用した国際交流、副専攻グローバルリーダー教育プログラムの充実、留学や海外インターンシップを支援する海外拠点の開設など、大学のグローバル化を推進
- ・国際商経学部、社会情報科学部、社会科学、情報科学、理学の3研究科では、グローバル化や DX の進展など時代の変化に的確に対応しながら特色ある教育を展開し、国内外で活躍する次世代リーダーを育成
- ・総合大学の強みを活かした全学的な異分野融合・部局横断研究、産学官連携等による GX 等の最先端研究などを推進
- ・社会価値創造機構を中心とした地元企業とのマッチング事業やセミナーの開催、リカレント教育の拠点として新長田キャンパスプラザの整備を行うなど、大学が有する資源と蓄積された教育研究の成果を提供

###### ②芸術文化観光専門職大学

- ・理論と実践を交互に学ぶラーニング・ブリッジング、1年次全寮制、臨地実務実習など、特色のある教育を展開し、高度な専門職業人を輩出
- ・交換留学生の受入や学生の海外体験を促進するなど、グローバル化への取組が本格化
- ・地元団体との多数の協働事業に加え、UNHCR 共同プロジェクトを開始するなど、大学の知見を生かし、但馬地域にとどまらない社会貢献を推進

##### (2) 両大学間の連携

- ・地域資源マネジメント研究科の教員による科目提供や、共同プロジェクトの実施など、一部において連携を推進

##### (3) 管理運営

- ・県のふるさとひょうご寄附金とも連携するなど、自主財源の拡大に向けた取組を推進し、外部資金を獲得
- ・女性教員、外国人教員の積極的な採用を行うなど、ダイバーシティ & インクルージョンを推進
- ・両大学の HP のリニューアル、SNS の活用、学長による記者会見など、大学の魅力を PR

しかしながら、複数年に亘る科研費詐取という重大な事案が生じたことについては、法人全体で重く受け止め猛省されたい。

※今後、引き続き取り組むべき課題（主なポイント）

①兵庫県立大学

- ・全学的なグローバル教育の推進、教養教育の充実、理工系女子学生や社会人など多様な人材育成の強化、中高大連携の推進
- ・企業等との共同研究や受託研究の強化、GX 等の社会課題の解決に向けた学際的な研究の促進と成果の PR 等

②芸術文化観光専門職大学

- ・更なるグローバル展開と多言語教育の推進
- ・地域課題の解決やイノベーションの創出、地域創生の新しいモデルを県内外に発信 等

③共通

- ・両大学間の人材育成における連携
- ・リカレント教育の取組の促進
- ・積極的な外部資金の獲得
- ・コンプライアンス意識とガバナンス体制強化の徹底
- ・ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進 等

## 2 第三期中期目標・中期計画に向けて

第二期中期目標期間は、急速な少子化の進行、グローバル化の進展、新型コロナウイルスの流行、緊迫の度合いを増す国際情勢など、大学を取り巻く環境は大きく変化した。このような状況においても、理事長・学長のリーダーシップの下、中期計画に掲げた目標を達成するため、教育、研究、社会貢献、法人運営の各分野について、臨機応変に取り組み、大学改革を推進してきた。

令和6年度には、両大学において、急速に変化する時代の要請に即して具現化するための「兵庫県立大学ビジョン 2036」と、但馬地域とともに成長し、社会貢献し続けるための道標とする「芸術文化観光専門職大学ビジョン 2050」を策定した。

今後の大学運営の根幹を成す各大学のビジョンを教職員に浸透させ、これに基づく取組を推進するとともに、第三期中期目標及び中期計画の実現に向けて、スピード感を持ちながら、一丸となって取り組まれることを期待する。

両大学が社会ニーズの変化に的確に対応し、県施策との連携も図りながら、これまで積み上げてきた取組を更に発展させ、ステークホルダーからの信頼と期待に応え、選ばれる大学であり続けられるよう、不断の改革を続けられたい。